

10/22
2023

定番野菜の価格高騰

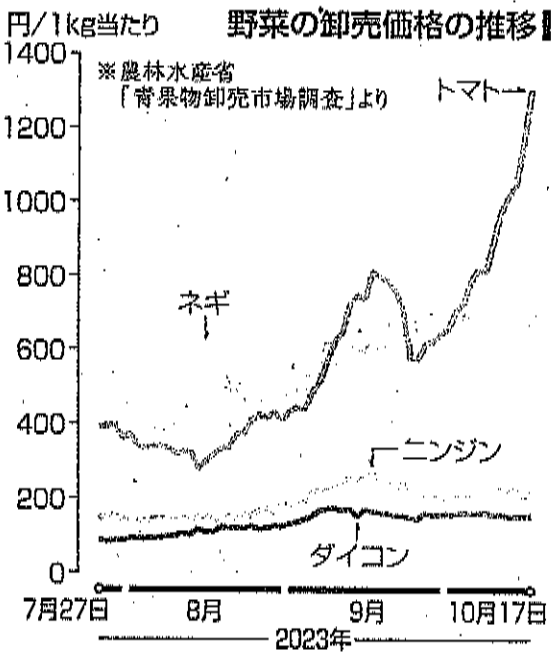
猛暑で不作 平年の3倍近いものも

トマトやダイコン、ニンジン、ネギといった食卓に欠かせない定番野菜の価格が全国的に高騰している。今夏の猛暑による不作が背景にあり、平年の3倍近い値段になっているものもみられる。ガリンや電気代、食品の相次ぐ値上げという



野菜	10月17日の価格 (1kg当たり)	平年価格	平年との比較
トマト	1306円	463円	約2.8倍
ダイコン	155円	90円	約1.7倍
ニンジン	225円	133円	約1.7倍
ネギ	668円	418円	約1.6倍

※農林水産省「青果物卸売市場調査」



た物価高で苦しむ家計にとって、野菜価格高騰はさらなる負担となりそうだ。農林水産省によると、トマトは北海道や福島県で、8月中旬から9月中旬の高温により実が付かないなどの影響があった。ダイコンは北海道や青森県で影響を受けたほか、ニンジンも北海道で8月から9月中旬の高温などにより、細くなる傾向があった。ネギは青森県や秋田県で8月中旬以降の高温や干ばつが響いた。農水省調査によると、東京都中央卸売市場でのトマト1kg当たりの卸売価格は7月27日時点で392円だったが、10月17日時点で平年の約2.8倍の1306円まで上昇した。ダイコンの10月17日時点の卸売価格は平年の約1.7倍の155円、ニンジンは約1.7倍の225円、ネギは約1.6倍の668円だった。全国の他の卸売市場も同じ傾向で、7月と比べトマトを中心に価格が大幅に上昇している。農水省はトマトやダイコン、ニンジン、ネギの10月の価格見通しは、平年を上回って推移するおとめてお

り、家計への影響はしばらく続きそうだ。担当者は「全体的に高値傾向を示しており、引き続き動向を注視する」と話した。東京都内を中心にスーパー「アキタイ」などを展開する秋葉弘道社長は、仕入れ値が上がる中で、価格を抑えて販売しており「トマトは大赤字じゃないか」と嘆く。練馬区のアキタイ関町本店では10月18日に大きめのトマト3〜4個が入ったパックが680円(税抜き)で売られていた。

れ値が上がる中で、価格を抑えて販売しており「トマトは大赤字じゃないか」と嘆く。練馬区のアキタイ関町本店では10月18日に大きめのトマト3〜4個が入ったパックが680円(税抜き)で売られていた。